

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 68 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2023 年 10 月 20 日 (木) 9:30~12:00
2. 場 所 Web開催 (Webex)
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 中川 (幹事), 赤木 (加藤代理), 新井, 一森, 稲垣, 岩本, 大木, 木谷 (辻代理), 仙名, 高尾, 松藤, 望月, 山上, 遊佐, 吉田 (中川代理), 吉成 (18 名)
(欠席委員) 橘高 (1 名)
(常時参加者) 安部, 伊藤 (慎), 上野, 榎崎, 後藤, 杉野, 長谷川, 水田, 山崎
4. 配布資料
 - P14SC68-1 第67回PLM分科会議事録案
 - P14SC68-2 人事
 - P14SC68-3-1 PLM実施基準202X年版 (追補4) 案の標準委員会決議投票結果
 - P14SC68-3-2 PLM実施基準202X年版 (追補4) の標準原案
 - P14SC68-4-1 経年劣化判定会議からの劣化メカまとめ表への反映提案
 - P14SC68-4-2 経年劣化判定会議からの反映提案の劣化メカまとめ表への反映案
 - P14SC68-5 原子力学会秋の年会企画セッションについて
 - P14SC68-6 法改正に係る状況報告
 - P14SC68-7 米国SLRに関する技術情報

参考資料

- P14SC68-参考1 PLM実施基準改定スケジュール
- P14SC68-参考2-1 第63回システム安全専門部会議事録 (案)
- P14SC68-参考2-2 第92回標準委員会議事録 (案)

5. 議事

開始時点での出席委員は 16 名で定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC68-1)

第 67 回 PLM 分科会議事録案が紹介され、承認された。

(2) 人事 (P14SC68-2)

・委員の退任

四国電力の中川氏の退任が報告された。

・委員の新任

新委員として四国電力の吉田氏が推薦されている旨説明され、審議の結果新委員と

して選任することが承認された。

・常時参加者所属変更

常時参加者の田村氏が中国電力から東京都市大学へ所属変更される旨紹介があり、審議の結果所属変更が承認された。

(3) PLM実施基準202X年版（追補4）案の標準委員会決議投票結果について（P14SC68-3-1,2）

PLM実施基準202X年版（追補4）本報告案の標準委員会決議投票の結果、反対意見等なく可決された旨が報告された。

(4) 経年劣化判定会議からの劣化メカまとめ表への反映提案及び反映案について（P14SC68-4-1,2）

電力共通技術基盤（劣化メカニズム整理表）より3件の経年劣化メカニズムまとめ表（以下、「まとめ表」という。）へ反映すべき運転経験情報（以下に①～③で記載）が抽出されたためまとめ表への反映提案があり、高尾委員より詳細な内容について報告された。

【まとめ表へ反映すべき運転経験情報】

①加圧器スプレイ配管溶接部における有意な指示（ニューシア通番13179）

②敦賀発電所2号機Aディーゼル発電機シリンダ注油器動作不良について（ニューシア通番13363）

③5号機非常用ディーゼル発電機（A）過給機出口配管溶接部における貫通した亀裂の確認について（ニューシア通番13417）

PLM分科会の対応方針として以下の案が報告され、本案で今後まとめ表への反映検討を実施していくこととなった。

【PLM分科会の対応案】

①はすでに追補4のまとめ表にP05-02No.17「溶接部の施工条件に起因する内面からの粒界割れ」として反映されているが、ATENAで本件に関する研究を実施中（～2025年度）であるため、研究結果がまとまってから経年劣化事象の記載を検討する。②③は既知の経年劣化事象で、即座にまとめ表への反映が必要ではないため、追補5で反映する。

また、①の研究の進捗としては、亀裂の進展は応力腐食割れであると分かったが、亀裂の発生起因は応力腐食割れであるとは特定されておらず、現在調査中であることが報告された。

(5) 原子力学会秋の年会企画セッションについて（P14SC68-5）

9/6の原子力学会秋の年会の中で、企画セッション「安全な長期運転に向けた標準化活動」が実施され、その内容について鈴木主査より報告された。また、当日の発表資料は標準委員会のホームページに公開されていることが説明された。

(6) 法改正に係る状況報告（P14SC68-6）

法改正に係る状況について、制定された長期施設管理計画の審査基準とPLM実施基準の比較を実施した結果、今後PLM実施基準への反映検討が必要と考えられる項目について報告された。今回はまず事務局でドラフトを作成したので、各委員・常時参加者で資料を確認して気づき事項等あれば事務局に連絡することとなった。

(7) 米国SLRに関する技術情報 (P14SC68-7)

最新の米国SLRの動向について、後藤常時参加者より報告があり、現状でPLM実施基準へ早急に反映が必要な事項がないことを確認した。PLM実施基準に関連する主なトピックとして、経年劣化検査、GALL-SLRの改定状況、IGALLのフェーズ6の改定状況が報告された。また、以下の質問と回答及びコメントがあった。

Q：経年劣化検査に関する情報元として「NRC検査官研修資料」とあるが、本資料は公開情報なのか。

A：公開情報であり、NRCの電子文書管理システムADAMS (Agencywide Documents Access and Management System) で閲覧することが出来る。

Q：経年劣化検査の対象プラントとして、Beaver Valley-1/2が選ばれた理由は？

A：理由は不明。当該プラントは更新認可取得済み（SLR申請は未表明）であり、ほとんどの米国プラントが更新認可を取得しているため、無作為に選ばれたと思われる。

Q：IGALLフェーズ6のWGには現在日本から参加されている方はいるのか？

A：WG1には東電の高尾さんが参加されている。（後日調査の結果）WG2には東北電力の宮原さん、WG3には関西電力の森山さんが参加されている。

6. その他

2023年度 PLM 実施基準改定のスケジュール及び前回のシステム安全専門部会・標準委員会の議事録案で PLM 分科会に関連する箇所が報告された。

次回分科会は 2024 年 1 月 17 日に対面/Web のハイブリット形式で実施することが説明された。今回 Webex で会議に入れない方がいたため、次回の Web の開催のやり方を変更する可能性があることが説明されたが、Teams・Zoom だと使用されていない方がいるためなるべく Webex を使用し、不具合が生じた場合は、電話回線を使用する等の対応を実施するのが良いのではないかと意見があった。事務局で検討し委員・常時参加者へ改めて連絡することとなった。

以 上